

「授業改善のための学生アンケート」2025年度後期 顕彰授業における工夫

2025年度後期「授業改善のための学生アンケート」の顕彰授業における工夫をご紹介します。

【参考】顕彰の対象となったアンケート項目は以下の6項目です。

- Q7 教員の説明はわかりやすかった。
- Q9 教科書や配布資料など、教材は適切だった。
- Q10 学生の質問や相談に対して、教員の対応は適切だった。
- Q14 この授業に主体的に取り組むことができた。
- Q15 この授業の内容に興味を持つことができた。
- Q16 この授業の内容を十分に習得できた。

<少人数部門（履修者6～19名）>

「テーマ別研究Ⅱ／テーマ別研究Ⅳ」 武田 加奈子 先生（文学部国語国文学科教授）

2025 木2 後期 国語国文学科専門科目

◎「テーマ別研究」とは？

「テーマ別研究」という授業はいわゆるゼミのことで、国語国文学科の場合は卒業論文（卒論）をどの分野のどの教員のもとで書くかを決めた3年生から所属します。私の授業では、日本語に関する疑問について調べるためのさまざまな調査方法を知ることから始めています。その後、一人ずつどの調査方法について発表するかを決めてもらい、実際の研究論文を読んで、内容をまとめて発表してもらいます。

また、3、4年生合同の授業なので、4年生は自身の卒論の進捗報告をしたり、時には調査協力をお願いを授業内でしたり、卒論提出後の報告などもこの「テーマ別研究」の時間に行っています。3年生は4年生がどんなテーマに取り組んでいるのか、どんな調査方法を採用し、どんな結果を得られたのかをゼミの発表で聞いて、次年度の自分を思い描いてもらいます。4年生は先輩として卒論のテーマ発表から始めますが、就活と同時並行でなかなか進まなかったりする時期もあり、後輩にいい格好を見せられない人もいますが…。自分で調査を始めるようになると、お互いの調査や分析についての質疑応答もポイントを踏まえたものになってくるので、私も成長を感じられる点です。

◎何か特別なことはやっていますか

この授業方法自体は着任当初から変えていませんし、自分も学生のころは似たような授業を受けてきたので、特に目新しい取り組みとかはないと思います。ただ、卒論では基本的に好きなことを取り上げていいことにしているので、一緒に何かに取り組んだりすることはないという難点があります。3年生で同じゼミになったけれど、今まではあまり話したことがなかったというのもよくあるので、自己紹介をじっくりやるとか、グループワークを4

月に入れるなどはやっています。自己紹介は主に新歓と称してやる学期始めの懇親会（いわゆる飲み会）でじっくりやっているかもしれません…これは私がただ飲みに行きたいだけということもあると思います…。国文で飲みに行くゼミというのは聞いたことがないと学生からも言われていますが、でもこれも着任当初から私がリクエストしてやってもらっていたりします。ちなみに、4年生の送別会もやっています。

うちのゼミの特長… 敢えていうなら、先輩・後輩のつながりがあるところかもしれません。人数が多いゼミだと話したことがない人もいるだろうと思いますが、私のところでは先輩（卒業生）に会いたいなとつぶやくかわいい後輩もいます。4年生には授業アンケートとは別に、卒論の進め方や武田とのコミュニケーションの取り方などについてアンケートをとり、まとめて後輩へのアドバイスとして共有しています。これも着任当初からやっています。最近、希望があればゼミ合宿も行っています。学生はゼミ“旅行”と言っているのですが… 一応、フィールドワーク（現地調査）の形式をとっているつもりです。なかなか形にまとめられないので、ラフティングとか花火とか、そういうイメージが強いのかもしれません。これまで調査したことを一緒に論文にまとめられたらいいなとは思っているのですが、うまく積み重ねができるかどうかは難しく、ちょっと先のことになりそうです。

◎さいごに

今回の賞をいただいた学期にアンケート回答をした学年には、私が白百合に着任して送り出した 10 期目の卒業生が含まれています。これまで表彰などとは無縁の人生でしたが、節目の時期にプレゼントをいただいた気分です。「先生のブログ」と笑われている卒業生 LINE グループがあるのですが、そんなことは気にせずに（いつも気にしませんが）賞をもらったよと、また報告メッセージを流そうと思います。

このたびは身に余る賞をいただき、光栄に思います。ありがとうございました。



< 多人数部門（履修者 20 名以上） >

「総合英語Ⅱ」 遊佐 重樹 先生（全学基盤教育部門グローバル言語・文化教育センター教授）
2025 金 2 後期 外国語科目

○プレゼンテーションソフトを活用

テキスト本文を 1 文ずつスクリーンに投影し解説することで、長文読解の苦手意識を取り除くようにした。特に、キーワードや重要な箇所を色分けして意味を把握するだけで文全体の理解に繋げることができると意識づけた。授業評価のコメントから、この手法は効果があったことが窺える。毎回の準備は大変だが、この授業スタイルを支持する声が大きいため、継続したい。(Q7, 9, 16, 18)

○語彙力増強対策

前期に担当した「総合英語Ⅰ」では、語彙力不足に悩む学生が多かったため、語源学 (etymology) の知識を加えることで、語彙力を伸ばすテクニックを教えた。長い単語の多くが「接頭辞 (prefix) — 語幹 (stem) — 接尾辞 (suffix)」から成り立っていることはテキストにも記載されているが、さらに多くの接頭辞と接尾辞を解説することで、初めて見る単語でもすぐに諦めずに意味を探る様子が見られた。(Q7, 14, 15, 18)

○発音の苦手意識を克服

前期に担当した「総合英語Ⅰ」では、発音に自信がない学生が多く、それが英語学習の苦手意識につながっていることがわかった。そこで遊佐がアメリカ留学中に見つけ出した8つの発音ポイントを伝授した結果、学生が英語発音のコツを掴み、次第に自信を持ったようだ。(Q9, 14, 15, 18)

○質問への回答

基礎的な疑問であるために授業中は質問できない学生は多い。それらに対応するために、アクションペーパーに質問事項を書かせるようにした。質問は主に文法に関するものが多く、翌週の授業の中で解説したことで、学生は理解した。普遍的で素朴な疑問の解消は、漠然とした英語学習への不安を解消することに繋がった。基本的な文法内容であっても、その知識が欠けていたことは決して恥ずかしいことではなく、授業を通じて確実に覚えてくれればよいと強調した。(Q7, 10, 16, 18)

授業スタイルは今後も概ね同じだが、学生のニーズを把握し、総合的な英語力の向上に繋がるような教授法を常に模索したい。学生の情意フィルターを取り除き、リラックスして授業に臨むことができるよう、あらゆる可能性を追求していきたい。

